

東新潟火力発電所1・2号機リプレース計画 環境影響評価方法書の概要

1. 対象事業の内容

(1) 設備の概要

項目	現 状		将 来	
	1号機	2号機	6号機	7号機
発電設備	方式	汽力発電	同 左	コバイドサイ外発電
	出力	60万kW		65万kW級
	燃料	天然ガス		同 左*
	煙突の高さ	200m		59m
排出ガス (排出濃度)	硫黄酸化物	排出しません		同 左
	窒素酸化物	96ppm	19ppm	5ppm
	ばいじん	排出しません		同 左
冷却水	冷却水量	19.6m <sup>3</sup> /s	28.2 m <sup>3</sup> /s	約 15 m <sup>3</sup> /s
	取放水温度差	8℃以下	7℃以下	7℃以下
一般排水	日最大	3,840 m <sup>3</sup> /日		約 3,840 m <sup>3</sup> /日
	日平均	2,910 m <sup>3</sup> /日		約 2,090 m <sup>3</sup> /日

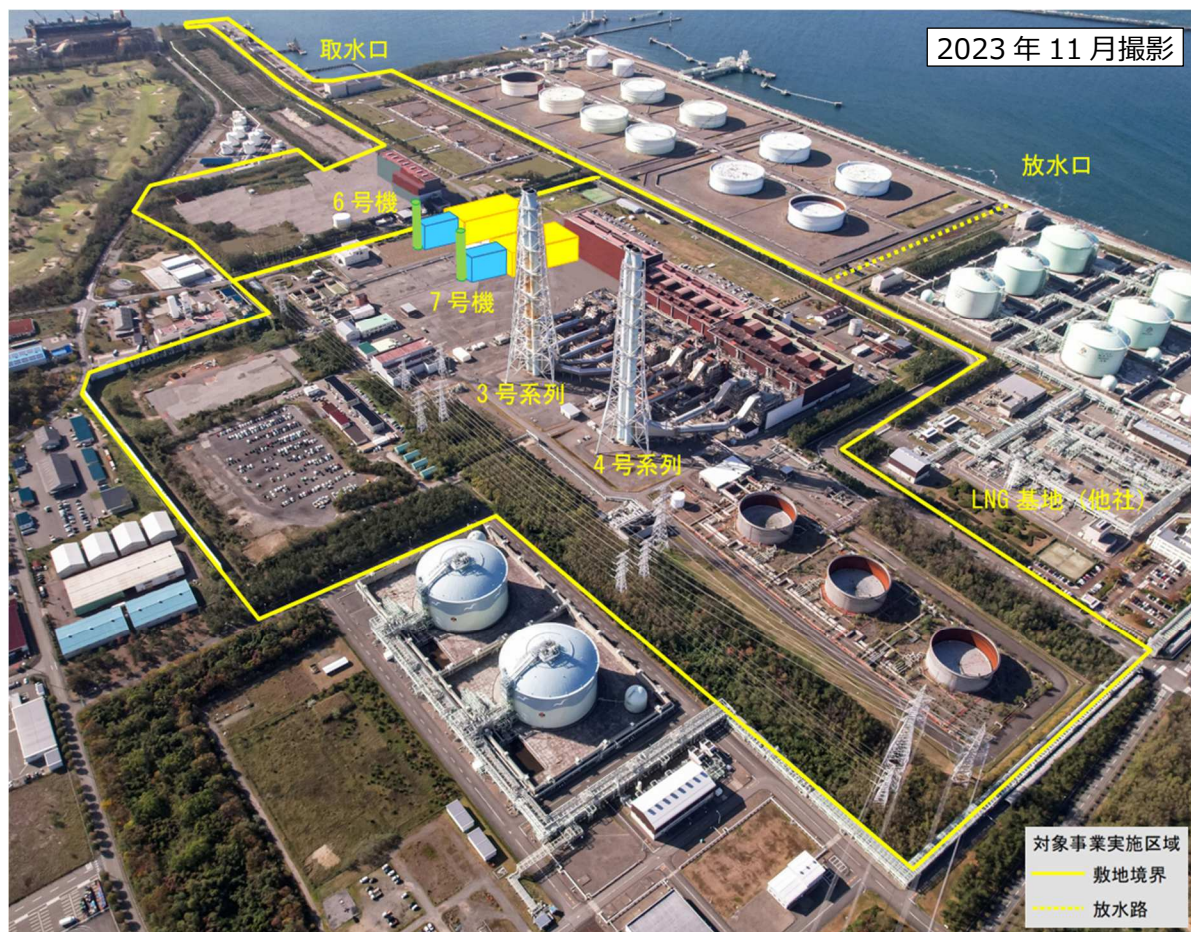
※ リプレース後の発電設備では、将来的にカーボンニュートラル燃料（水素/アンモニア）を活用することも検討。

(2) 工事工程

新設工事開始：2027年10月（予定）

6号機運転開始：2031年 3月（予定）

7号機運転開始：2036年 3月（予定）



リプレース後のイメージ

## 2. 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

### (1) 対象事業実施区域及びその周囲の状況

環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法を検討するに当たって必要と考えられる範囲において既存文献等を調査しました。

#### a. 自然的状況

大気環境、水環境、土壌及び地盤、地形及び地質、動植物、生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場及び一般環境中の放射性物質の状況について、既存の文献等を調査しました。

#### b. 社会的状況

人口及び産業、土地利用、河川等の利用、交通、学校・病院・住宅等の配置、下水道の整備及び廃棄物の状況について、既存の文献等を調査しました。

また、環境保全を目的とした法令等による指定地域、規制基準、行政の施策について調査しました。

### (2) 対象事業に係る環境影響評価の項目

環境影響評価を行う項目は、法令等に基づき、事業特性と地域特性を踏まえ、調査、予測及び評価を行う項目として大気や水質等の28項目を選定しました。

### (3) 調査・予測の手法

選定した環境影響評価の項目について、大気環境、水環境、動植物などの現地調査の手法及び予測の手法を選定しました。

<現地調査例（過去の調査事例）>



### (4) 評価の手法

調査及び予測の結果を踏まえ、環境影響が実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、環境保全についての配慮が適正になされているかを評価します。

また、国や自治体による環境基準や環境保全上の規制基準等の環境保全施策に対して整合が図られているかを評価します。

以上